

宇野港港湾計画資料

— 軽易な変更 —

平成12年3月

宇野港港湾管理者

宇野港港湾計画資料

目 次

1. 変更理由	1
2. 港湾施設の規模及び配置に関する資料	2
2-1 フェリーふ頭計画	2
2-2 臨港交通施設計画	4
3. 港湾の環境の整備及び保全に関する資料	7
3-1 港湾環境整備施設計画	7
4. 土地造成及び土地利用計画に関する資料	9
4-1 土地造成及び土地利用計画	9
5. 環境への影響と評価	11
6. その他の資料	12
6-1 資金計画	12
6-2 地方港湾審議会名簿	13

1. 変更理由

フェリーふ頭内、周辺国道等の交通の円滑化を図るため、宇野地区に臨港道路を追加する。
また、これに伴い、宇野地区の土地利用計画を変更する。

2. 港湾施設の規模及び配置に関する資料

2-1 フェリーふ頭計画

(1) 土地利用計画

① フェリーふ頭用地の現況

フェリーふ頭用地の面積等の現況は、次のとおりである。

地区名	土地利用 の 区 分	名 称	ふ頭用地 面 積 (ha)	状 況	摘 要
宇野地区	フェリーふ頭	エプロン	0.5	既定計画	
		ターミナル用地	0.2	既定計画	
		駐車場	0.9	既定計画	
		その他	0.3	既定計画	道路等
		合 計	1.9		

② フェリーふ頭用地計画変更の必要性

緑地計画の変更に伴い、フェリーふ頭用地を変更する必要性が生じた。

③ 計画変更するフェリーふ頭用地の規模及び配置

計画変更するふ頭用地の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

地 区 名	土地利用の区分	ふ頭用地 面 積 (ha)	主な内容	面積の考え方
宇野地区	フェリーふ頭	1.8	エプロン (0.5) ターミナル用地 (0.2) 駐車場 (0.9) その他 (0.2)	緑地計画変更のため

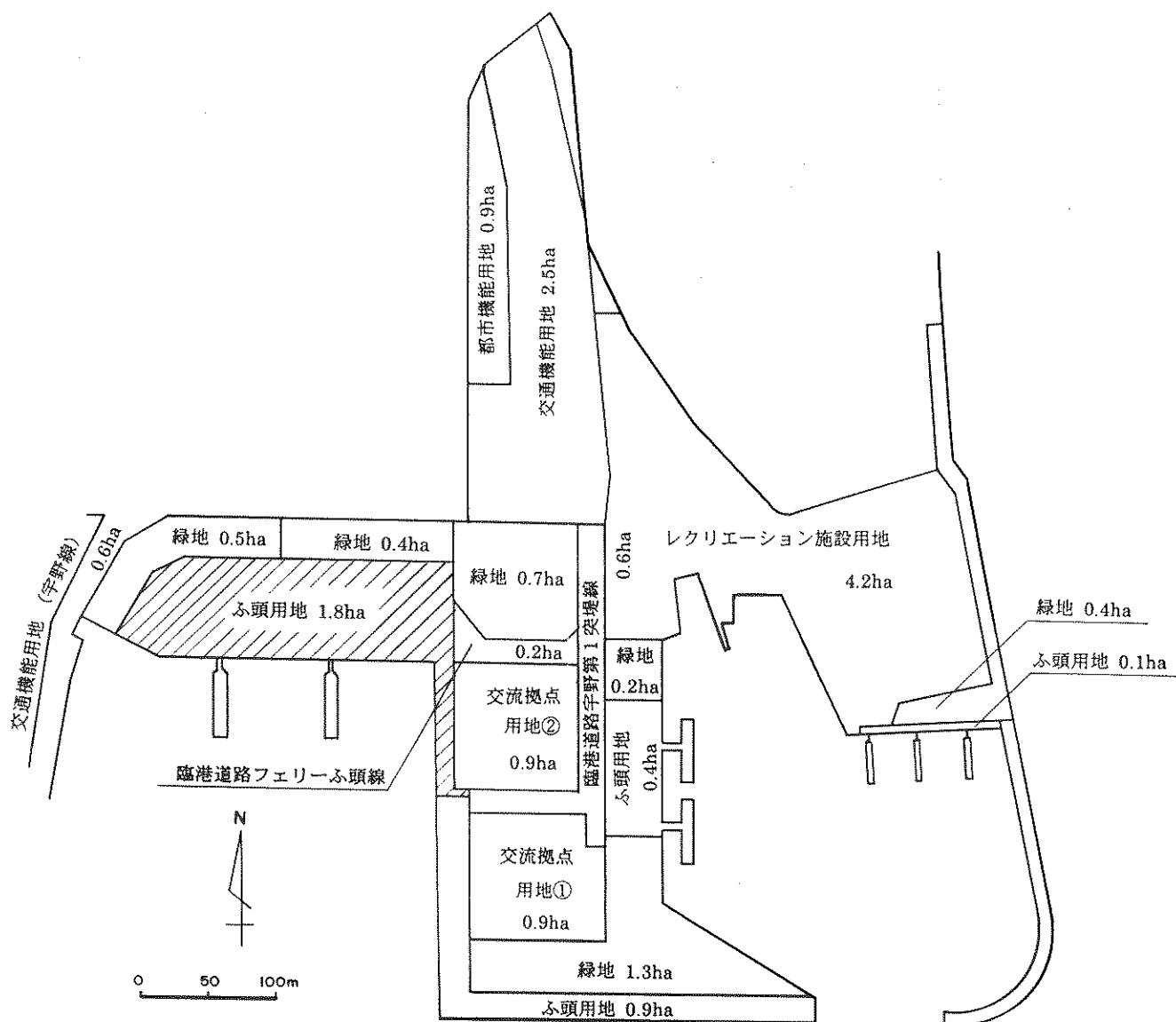


図-1 フェリーふ頭計画位置図

2-2 臨港交通施設計画

(1) 臨港道路

① 主要な臨港道路の現況

主要な臨港道路の交通量等の現況は、次のとおりである。

種別	施設名	起 点	終 点	車線数	交 通 量		大型車 混入率 (%)	基準交通量 (道路種別)	既設、工事中 既定計画の別
					台/日	台/時			
臨港道路	臨港道路 フェリー ふ頭線	宇野地区 フェリー ふ頭	臨港道路 宇野第一 突堤線	2	2,333	280	65.0	500	既定計画

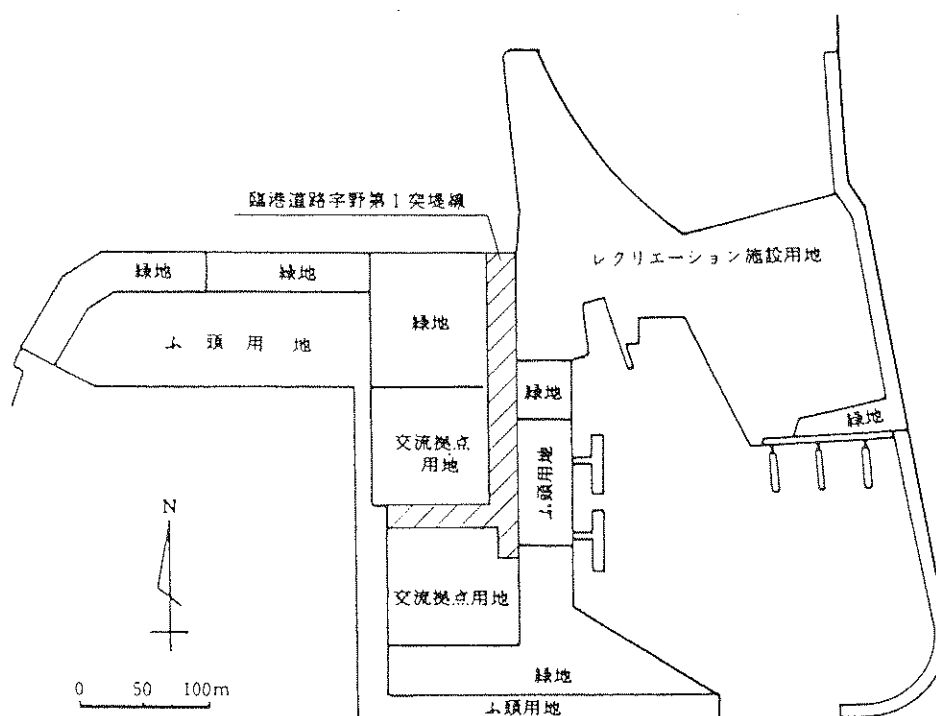


図-2 主要な臨港道路の現況図

② 臨港道路計画の必要性

フェリーふ頭内、周辺国道等の交通の円滑化を図るため、臨港交通施設を計画する。

③ 基準交通量

基準交通量は、次のとおりである。

道 路 の 種 類	基 準 交 通 量	
	2 車 線	多 車 線
港湾と国道等を連絡する道路	650台/時	600台/時（4車線以上）
そ の 他 の 道 路	500台/時	350台/時（4車線以上）

（出典：港湾の施設の技術上の基準・同解説）

④ 追加計画する臨港道路の交通量

追加計画する臨港道路の発生集中区域別の交通量は、次のとおりである。

施設名	起 点	終 点	車線数	基準交通量 (台/時)	区域別発生集中交通量 (台/時)			
					フェリー ふ頭用地	交流抛 点用地	緑 地	合 計
臨港道路 フェリー ふ 頭 線	宇野地区 フェリー ふ 頭	臨港道路 宇野第一 突 堤 線	2	500	280	90	19	389

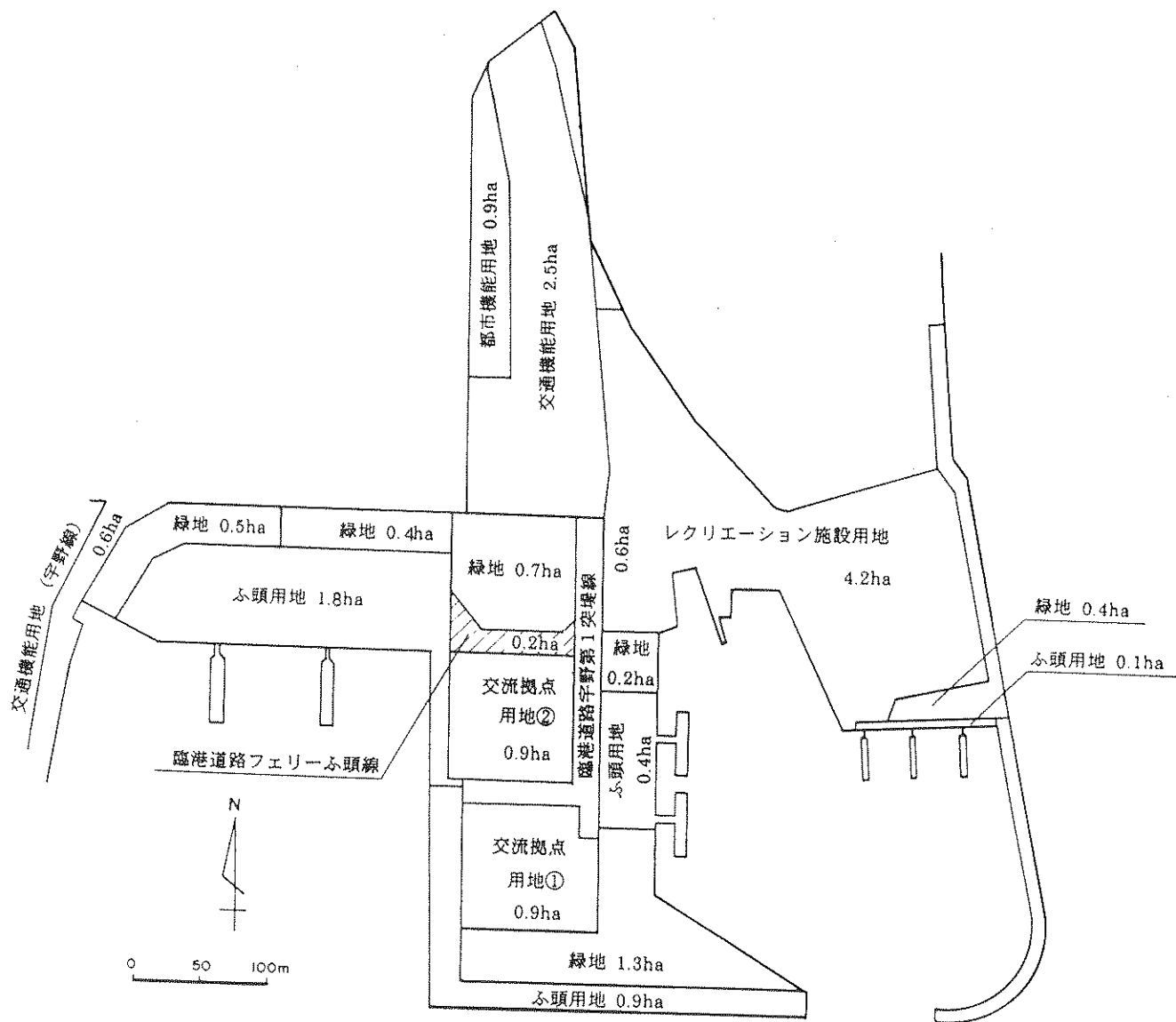


図-3 追加計画する臨港道路位置図

3. 港湾の環境の整備及び保全に関する資料

3-1 港湾環境整備施設計画

(1) 緑地計画

① 緑地の現況

緑地の面積等の現況は、次のとおりである。

地区名	名 称	緑地面積 (ha)	状 況	主要な用途	備 考
宇野地区	緑地①	0.9	既定計画	シンボル緑地、修景緑地	
	緑地②	0.2	既定計画	修景緑地、親水緑地	
	緑地③	1.3	既定計画	シンボル緑地、親水緑地	
	緑地④	0.3	既定計画	修景緑地、休息緑地	
	緑地⑤	0.5	既定計画	修景緑地、休息緑地	
	緑地⑥	0.4	既定計画	修景緑地、親水緑地、休息緑地	
	合 計	3.6			

② 緑地計画変更の必要性

臨港交通施設計画の変更に伴い、緑地を変更する必要性が生じた。

③ 計画変更する緑地の規模及び配置

計画変更する緑地の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

地 区 名	名 称	緑地面積 (ha)	主要な用途	規模の考え方	配置の考え方
宇野地区	緑地①	0.7	シンボル緑地、修景緑地	臨港交通施設計画変更のため	快適な港湾空間の創出のため
	緑地②	0.2	修景緑地、親水緑地		
	緑地③	1.3	シンボル緑地、親水緑地		
	緑地④	0.4	修景緑地、休息緑地		
	緑地⑤	0.5	修景緑地、休息緑地		
	緑地⑥	0.4	修景緑地、親水緑地、休息緑地		
	合 計	3.5			

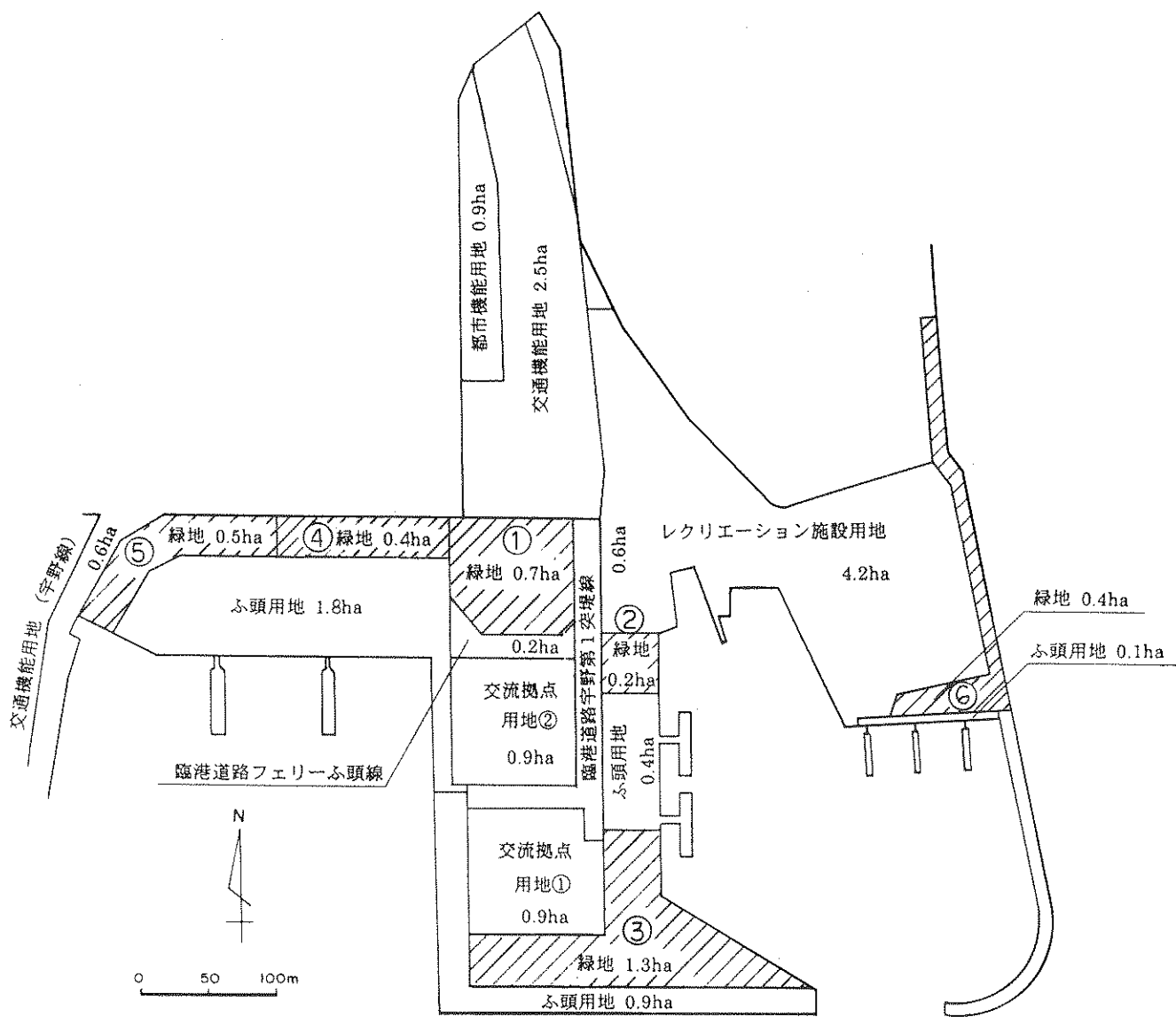


図-4 宇野地区緑地計画位置図

4. 土地造成及び土地利用計画に関する資料

4-1 土地造成及び土地利用計画

(1) 土地造成に係らない土地利用計画

臨港交通施設の計画に対応し、土地利用を変更するものである。

(単位：h a)

	ふ 頭 用 地	港湾関 連用地	交通拠 点用地	都市機 能用地	交通機 能用地	緑 地	レクリエーシ ョン施設用地	合 計
宇野地区	7. 3	4. 8	1. 8	0. 9	3. 9	4. 1	4. 2	27. 0

注) 今回の変更に関わる区域についてのみ記述した。

既定計画

(単位：h a)

	ふ 頭 用 地	港湾関 連用地	交通拠 点用地	都市機 能用地	交通機 能用地	緑 地	レクリエーシ ョン施設用地	合 計
宇野地区	7. 4	4. 8	1. 8	0. 9	3. 7	4. 2	4. 2	27. 0

注) 今回の変更に関わる区域についてのみ記述した。



図-5 宇野地区土地利用計画図

5. 環境への影響と評価

(1) 大気質

今回の計画は周辺交通の円滑化を図るもので、交通量の増加につながるものではないので、大気質への影響は変わらない。

(2) 潮流

今回の計画は陸上部の工事なので、潮流への影響はない。

(3) 水質

今回の計画により発生する水質汚濁源はない。

(4) 底質

今回の計画は陸上部の工事のため、底質への影響はない。

(5) 騒音・振動

今回の計画は周辺交通の円滑化を図るもので、交通量の増加につながるものではなく、騒音・振動の影響は変わらない。

(6) 悪臭

今回の計画により発生する悪臭発生源はない。

(7) 生態系

今回の計画は陸上工事のため、生態系への影響はない。

(8) 景観

今回の計画に伴う地形の変化はなく、景観への影響はない。

なお、計画の実施に当たっては、工法工期について十分検討し、周辺環境への影響が少なくなるよう慎重に行うものとする。

以上の検討から、今回の計画による環境への影響は軽微であると考えられる。

6. その他の資料

6-1 資金計画

資金計画は次のとおりである。

地 区	種 別	施設区分	施 設 名	単位	数 量	事業費 (百万円)
宇 野	公共事業	臨港交通 施 設	道 路	m ²	7,900	158
		港湾環境 整備施設	緑 地 ①	m ²	7,300	576
			緑 地 ②	m ²	1,900	130
			緑 地 ③	m ²	12,800	534
			緑 地 ④	m ²	3,800	394
			緑 地 ⑤	m ²	5,100	90
			緑 地 ⑥	m ²	4,100	86
		小 計				1,968
	起債事業	用地造成	ふ 頭 用 地	m ²	31,800	256
			交流拠点用地	m ²	9,100	229
		小 計				485
	合 計					2,453

6-2 地方港湾審議会名簿

岡山県地方港湾審議会委員
(任期：平成12年11月17日)

1. 学識経験を有するもの

神戸商船大学名誉教授	本田	啓之輔
岡山県商工会議所連合会会長	岡崎	彬
岡山大学農学部教授	千葉	喬三
岡山大学理学部教授	山本	雅道
岡山大学環境理工学部教授	奥村	樹郎
岡山大学文学部教授	内田	和子
福山大学工学部教授	森	忠次
東亜大学大学院教授	山下	隆弘
建築士	山本	幸子

2. 港湾関係者

岡山県トラック協会会長	新見	健
岡山県漁業協同組合連合会会長	西川	太
岡山地区旅客船協会会長	山崎	茂幸
内海水先人会副会長	足立	浩司
川崎製鉄(株)水島製鉄所長	中西	輝行
中国地方港運協会副会長	井端	直樹
岡山県倉庫協会会長	末長	範彦
岡山県船主協議会理事長	松井	正之
全日本海員組合尾道支部長	金森	洋輔

3. 関係市町村を代表する者

倉敷市長	中田	武志
玉野市長	山根	敬則
岡山市長	萩原	誠司

4. 県議会の議員

岡山県議会議員	中塚	正人
岡山県議会議員	古山	泰生

5. 関係行政機関の職員

宇野税関支署長	吉川	勘造
水島税関支署長	高祖	孝郎
第三港湾建設局長	金澤	寛
中国運輸局玉野海運支局長	加藤	隆一
中国運輸局水島海運支局長	岩本	武久
玉野海上保安部長	宮崎	忠弘
水島海上保安部長	福岡	清
中国地方建設局企画部長	土山	和夫

6. 県の職員

土木部長	森永	教夫
企画振興部長	池田	敏弘
生活環境部長	森	義郎